

JR東海労なごや

2013年8月22日 No. 973
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：堀部肇

どこへ向かう日本—世情を切るシリーズ1

国会のねじれ解消が、 民主主義の崩壊と言論の自由を奪う！ 政治の右傾化にNOを突き付けよう!!

中日新聞による8月の世論調査を見ると、7月の参院選で与党が過半数を確保し衆参のねじれが解消されたことに対して、評価するという答えが58%を占めました。

ねじれを評価する人のほとんどは、マスコミや自民の宣伝をそのままストレートに受け入れてしまった結果だと言えます。そもそもねじれを解消するとは何を意味するのでしょうか。端的に言えば、国会で反対意見をいう政党がなくなり、審議のないまま与党や権力、企業に都合のいい法律が成立してしまうことになるのです。まさに民主主義の崩壊を意味し、一党独裁体制を容認することに繋がります。

やりたい放題の自民党政権にストップを！

この数ヶ月、安倍首相は「デフレからの脱却を目指」として、法人税減税や人件費を軽くするための「限定正社員制度」導入など大企業優遇を計っています。しかも安倍首相は、経済指標を無理やり良くしてでも「景気は上向いている」と言いつづけ、来年4月から「消費税増税」を実施する口実づくりをさかんに行っています。

その一方で、憲法9条の形骸化を図り集団的自衛権の行使を容認する姿勢を打ち出しています。

しかも国民の知る権利を制限する法律、特定秘密保全法案が秋の臨時国会に提出され成立する可能性が高くなっているのです。広く国民のプライバシーを侵害しかねない法案と言える内容です。それだけではありません。領土問題、歴史認識、靖国参拝をめぐり中国、韓国に対する挑発をわざとエスカレートさせ、ナショナリズムをさかん煽っています。

戦争ができる国づくりを着実に目指しているのです。

自民党政権の暴走を許してはなりません。 平和憲法をしっかりと守りましょう！